

ユーザーレポート User Report

～0の証明～

バス

北海道中央バス株式会社

現場から上がった“精度”を求める声。そして災害リスクに対する体制も確立。

営業路線数 282路線(681系統)、免許路線キロ数 約5200km、保有車両1,189台と、国内有数のバス事業を展開する北海道中央バス。広大な北海道の交通インフラを担い、道民の足として親しまれている同社の安全に対する取り組みを伺いました。

ご利用機器

パソコン連動記録型測定器
ALC-PRO II

携帯電話連動記録型測定器
ALC Mobile



導入の背景 より精度の高い検査の実施と結果管理の効率化を図る

田島氏：当社は平成18年に、「輸送の安全の確保が事業経営の根幹であり、社会的使命である」との考えのもと、運輸安全マネジメント制度を導入。特に「現場自らの力」に磨きをかけることを重視し、職場内での社員研修・訓練を積極的に行っております。

中山氏：それに先立ち、アルコール検査自体は平成16年から行っていましたが、数値なども表示されない比較的簡易な機器を使用しており、アルコール以外に反応することもありました。確認作業も管理者が音声とライトの点灯で確認を行っていたため、100台以上のバスが出発する拠点などでは、朝6～8時のピーク時には点呼時に非常に混雑することからアルコール検査待ちが発生する状況にあり、また、管理面では「記録や画像も残せる機器を」という声も上がっていました。それらを勘案した結果、平成20年にALC-PRO IIとALC-Mobileを導入したのですが、検査が円滑に行えるようになった上、誤反応もなくなり、現場からも好意的に受け入れられました。管理面でも、記録が残ることでデータを簡単に確認でき作業効率を上げることができたと感じています。

現在は、営業所及び車両台数の多い車庫に、ALC-PRO IIを1台～複数台設置。また、車両数の少ない車庫や都市間高速バスの宿泊所、貸切バスの携行用などには、ALC-Mobileを使用しています。

誤反応対策 燃料電池センサーで精度が高い
ALC-Mobile、ALC-PRO II導入
点呼時の混雑解消
拠点ごとの運行規模に応じて複数台導入
災害リスク対策
予備機の常備と確実な保守
ALC-Mobileを予備機として設置

運用ポイント 震災・計画停電を機に万全のバックアップ体制を確立

田島氏：アルコール検査は「輸送の安全」を担保する上で最も基本的、かつ重要なものです。そのため当社では、各拠点に必ず予備機を配置し、それらを含めた保守を実施。さらに、震災とそれに続く計画停電を教訓に、停電時でも、無線とアルコール検知機だけは確実に電源を確保できる体制を整備しました。具体的には、予備機として電池駆動のALC-Mobileを各拠点に配置する、発電機や車用のバッテリーを緊急無線用電源として確保する等々。アルコール検査用のPCもノートパソコンですが、これもバッテリーで駆動できるという理由からです。

安全への取り組み姿勢 結果を出し、定着させる。一定水準をクリアすることがゴールではない。

中山氏：「安全」はお客様に対する最低限の保証ですが、我々運輸事業者としては、常に最大限の努力をしなければならないと考えています。昨年から、従来からの事故防止の取り組みに加え、



重点的な取り組みを行っており、その一環として『交差点右左折時の一旦停止による安全確認』を実施していますが、一定の効果を上げただけでなく、他社にも波及し始めました。今やっていることを一つひとつ自分たちのものすること。結果を出し、それを定着させていくことが大切ですね。安全に対する制度や意識は、一定水準をクリアしたからといってそれがゴールになるものではありませんから。

取材ご協力

北海道中央バス株式会社

運輸部 副部長 兼 保安課長 田島 健 様
運輸部 保安課 係長 中山 朝貴 様

〒060-0041
北海道札幌市中央区大通東1-3
TEL 011-221-5162 FAX 011-221-5178
URL <http://www.chuo-bus.co.jp/>



取材後記

同社では平成23年6月からバス車内等に大きく「お客様ご意見・ご要望デスク」の電話番号を掲げ、世間の感覚に自分たちの意識が合っているか確認する取り組みも始めた。「これまで以上に“お客様のニーズ”をとらえ、サービスのあり方を追求する」姿勢の表れだ。